

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100583		
法人名	医療法人社団 浅野会		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム		
所在地	岐阜県可児市桜ヶ丘6-73		
自己評価作成日	平成23年12月9日	評価結果市町村受理日	平成24年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2173100583&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体法人のクリニックが隣にあることから、医師との連携が十分に取れており、安心して生活が出来る。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域医療を支えてきた医師の思いから生まれたこのホームは、同敷地内にデイサービスや居宅支援事業所、クリニックが併設され、地域住民と利用者の利便性を図っている。年に2回、地域の小学生が来訪し、トランプやゲームを行い、利用者と子ども達との心の触れ合いの場ともなっている。医療面では、利用者の健康管理のため、協力医と24時間連絡が取れる体制を整えている。利用者が、ホーム前のスーパーへ気軽に出かけ、馴染みの人や行き交う人たちと触れ合いながら、住み慣れた地域の中で、豊かで自分らしい暮らしを支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	老いても個人として自分らしく生きることを尊重するケアに取り組んでいる。	「老いても個人を尊重する」という理念をスタッフルームに掲示し、毎日、全職員が確認している。利用者の過去歴や生き方を重んじ、住み慣れた地域との関係の継続を大切に、自分らしい生き方を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、秋祭り等に参加している。	自治会に加入し、公民館で開催される地域の夏祭りや秋祭り、道路の除草、落ち葉清掃を利用者と共に参加している。市から配布される花の苗を植える「花いっぱい運動」にも参加し、ホーム前の花壇の手入れを行い、地域の美化に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、サービス向上にをめざし、問題点を解決にむける。	自治会長・民生委員・利用者・家族等の参加で、2ヶ月に1回開催され、運営推進会議内で防災訓練を行うこともある。参加者からは、介護保険の手続きや相談事などもあり、意見交流の場としても活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の近況報告書や、各種制度の相談等、連携を図っている。	行政担当者には、毎回運営推進会議に参加してもらっており、事業所の実情を報告している。さらに、ボランティアの要請や利用者サービスについての相談も日頃から行っている。	地域全体の福祉の質向上には、事業者と行政の良好な関係が重要なことから、現場で明らかになった課題や問題点を行政と話し合い、より良い連携がとれるよう、さらなる働きかけに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、窓で入り口等開放している。	身体拘束をしないケアについて、マニュアルや書式を整え、職員間で認識している。現在、安全のため、家族の了解を得てベッド柵で対応している人がいるが、介助法を工夫をし、早く解除できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルなどを参考にし、ミーティングで研修の機会を持っている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んでいるが、活かしてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設け、面会時に家族の方の意見や要望を聞いている。	意見箱が設置されているが、家族の訪問時や家族会の際に、管理者や職員に直接伝える場合が多い。むくみや歩行などの身体状況に関する質問があり、内容をかかりつけ医に確認して伝えている。家族とは常に気軽に話せる関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングの機会を設けている。	職員は、月に1回の職員会議や、日常業務の中で、管理者に意見や気づきを伝えている。ケア内容の見直しや入浴方法、介助位置の変更など、活発に意見交換を行い、利用者への支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1度の事業所会議を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を持つ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあまり出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して暮らせるよう要望等を理解し、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望があるときは傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆を大切に関係を築いていけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や、定期的に自宅に戻ったり、馴染みの美容院に出掛けるなど、家族の方の協力で実践している。	家族の協力により自宅に一時的に帰る、また、併設のデイサービスで昔からの知人と会って話すなど、馴染みの関係が利用後も保てるよう支援している。友人や親戚もホームを訪れ、居室などでゆっくりとひと時を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、談話する時間が持てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があった時は応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志を一番に考え、その都度検討している。	利用者との日々の会話の中から、思いや意向を把握している。また、その人その人の能力や好きなことを支援する中で、利用者の思いに気づき、本人の張り合いにつながる生き方に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを用いてケアの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日1人にひとりに話しかけ、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族を交えて話し合いの場を設けるように心がけたい。	利用者ごとの担当職員が、日々、観察することで気づいた点を記載し、介護計画の素案を作成し、ケアマネジャーに伝え、本人本位の計画へと繋げている。3ヶ月・6ヶ月と定期的な見直しだけでなく、急変時、また毎月のふり返りもミーティング時に行っている。	計画の作成や見直しでは、本人・家族と十分に話し合う機会を設けることが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を有効に活かし、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがある場合は、常に話し合う機会を持っている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もっと地域資源を取り入れて行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師、歯科医師、などと連携をとっている。月に2回往診がある。	隣接のクリニックが協力医であり、利用開始時の希望により、全利用者がかかりつけ医として、かかりつけ医とは24時間の連絡体制があり、看護師も毎週訪問している。総合病院や専門医の受診は家族が行うが、近隣の歯科医へは職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日数回のバイタルと表情行動等観察し看護師等に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報交換には努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針を重要事項説明書に記載している。	医療行為の伴わない自然な看取りを行った実績はあるが、ホームで行える限界のケアまでを基本としている。重度化・終末期に関しては、今後、医師・家族とホームで慎重に話し合いを進めていく姿勢である。	協力医との24時間の支援体制があり、自然な看取りを含め、家族の役割りの位置付けを共有しながら、終末期対応の進展に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後、定期的に行なって行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難通路の確保に心がけている。	地域の住民を交えた防災訓練は、法人併設のデイサービスやショートステイの事業所と合同で行っている。備蓄は、食料や飲料水、薬やおむつも保管し、災害に備えている。	夜間を想定した訓練と、通報訓練の自主的な実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、対応している。	ホームの理念に掲げられている尊重やプライバシーを最重視し、個々に合わせた声かけやトイレ誘導を行っている。利用者に話しかける際は、同じ目線で丁寧に優しく行い、寄り添うことを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情を観察して支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れで希望に応じてデイルームで他の利用者様と過ごして頂いたり居室で過ごして頂いたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に、好きな服を着てもらい、個性を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の嗜好を聞き、取り入れている。	利用者の好みや季節に応じた食事を提供している。トロミや刻みなど、利用者の状態に対応し、職員は適切な声かけと見守りで食事の介助を行っている。食後の食器洗いを手伝う利用者も見られ、おやつ作りなどは、楽しく一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握し、支援している。	利用開始時とほとんど変わりなく、尿・便意も保たれ、常時おむつを使用している人は1名のみで、約半数の人は布パンツを着用している。個々のパターンに応じ、さりげなくトイレに誘導することで、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給に心がけ、毎日の体操も欠かさず行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を聞き、入浴している。	週2回の入浴が基本であるが、数名ずつ、ゆったりと、その人のペースで入浴してもらっている。利用者の状況や希望により、毎日の入浴も可能である。時には、しょうが湯やゆず湯、また、アロマオイルを使用し、リラックスして入れるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れない方には、昼間のレクリエーションの参加や、散歩などをつしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常にスタッフが把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品に関しては、コーヒーの好きな方がおられ毎日楽しみにしておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や買い物には、希望があれば付き添っている。	日常的に近隣を散歩し、利用者の希望による買い物や外出を行っている。ホームの庭で、天候に合わせて昼食や日光浴も行っている。普段行けない場所への外出には家族の協力を得ている。利用者の気晴らしになるよう、寺社への参拝や桜の花見など、季節に応じた外出を支援している。	

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物へ出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は日常的に利用が可能にしてある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りなものを多く設置し、家庭的な雰囲気作りをしている。	日中は、ほとんどの利用者がリビングで過ごし、レクリエーションや食事前の体操にいそんでいる。共用の空間には、絵画や手づくり作品、季節の花を随所に飾り、家庭的な雰囲気を感じるられるように、居心地の良い環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはディルームがあり、少人数で座ることができ、会話を楽しめる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などの持込ができる。	居室内には洗面所とトイレが設置されており、利用者自身の手作り作品や誕生日プレゼントの色紙も飾られている。仏壇に毎日手を合わせ、花の水を替える利用者もあり、利用前の生活がそのまま続けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりのわかる事を理解し、見守りを努めている。		